波佐見中学校学校便り

学校教育目標　豊かな人生を切り拓き、よりよい未来の創り手となる生徒の育成

第 20 号
編集・発行
波佐見中学校
校長 池本敦司

「寄席」を鑑賞　青少年劇場

小噺（こばなし）の説明を受ける生徒＝10月28日ウェイブホールにて

10月28日（月）ウェイブホールにて、長崎県教育委員会と波佐見町教育委員会主催の「笑いの芸能『寄席』」を鑑賞しました。柳田禽太夫さんが、落語についてわかりやすく解説してくれました。一人の噺家が、身振り手振りで何人もの登場人物を演じ分けるのが落語です。お客さんはその姿を見ながら自分の頭の中でその世界に浸り、笑ったり悲しくなったり、感動したりします。面白い時は声を上げて笑っていい、でも、周りの観客がひたっている世界を邪魔して壊してはいけない（話しかけたり、気が散る動きをしたり）といわれました。鑑賞のマナーは、こういう本物の体験を実際にしないと身に付かないのかもしれません。

途中、代表の生徒たち３人が高座に上がり、小噺（チュウくらいのネズミの話）を演じました。３人ともなかなかの熱演で、柳家さんからもスカウトの声がかかるほどでした。

二つの落語に紙切りの芸も含めた寄席を鑑賞しました。紙切りはリクエストに応えて、１枚の紙とはさみから作品を切り出す芸ですが、大谷翔平や中学校職員の横顔を切り抜いた際には大きな歓声が上がりました。大変有意義な時間を過ごすことができました。

県駅伝大会

襷をつないだチーム波佐見

11月7日（水）秋晴れの中、県中学校総合体育大会駅伝競走大会が諫早市の県立総合公園陸上競技場周回コースにて実施されました。朝の気温は低かったのですが、競技開始時には20℃近くまで上がり、応援している私は少し汗ばむ程の天候でした。

女子が10時50分、男子が12時40分にスタートでした。男女とも、号砲とともに選手たちが一斉に駆け出し、競技場から周回コースへ。どの選手も母校の襷を胸に、これまでの練習の成果を発揮しようと一生懸命な姿が印象的でした。

私も応援のポイントを決めて波佐見中学校の駅伝チームのみなさんや保護者の皆さんと、選手が通過する際に声援を送りました。通過するときのスピードと力強さ、そして前を見て一つでも順位を上げようと頑張る姿に圧倒されました。

終了後チームみんなで＝県立総合公園陸上競技場

結果は女子が17位。男子が19位でした。女子が約20秒、男子が約1分20秒、郡の大会から記録を縮めることができました。

暑い中、毎日練習に励んだ選手の皆さん、サポートしてくれた駅伝チームの皆さん、顧問の先生方やコーチ、保護者の皆さん、本当にお疲れさまでした。

校長日記

10月下旬。ソフトボールを打つ音、ホイッスルの音、号令に生徒の歓声。グラウンドからいろんな音が聞こえてくる。日中の気温は高いが吹く風は随分心地よくなった。グラウンドから聞こえるこれらの音も、夏の暑さを乗り越え、少しほっとした感じにに聞こえる▼外の音が気になり窓を開けて授業の様子を眺めていると、甘い金木犀（キンモクセイ）の香り。秋だ。でも、金木犀って10月初旬じゃなかったかな？▼今年の夏も暑かった。彼岸花が咲くのが1週間ほど遅れたという報道もあった。金木犀も夏の暑さの影響を受けているのだろう。小さなオレンジ色の花は「やっと咲くことができるよ」と言っているようだ▼中学校は大きな行事が終了し少しほっとした空気が流れている。長い時間のんびりはできないが、金木犀の香りを楽しむくらいの余裕は持ちたいものだと思った。